

立志社と海南学校

■ 東九反田公園 史跡案内 参 ■

明治6年の政変で政府参議を辞した板垣退助を中心とする土佐士族は、翌年立志社と立志学舎を設立、明治9年までこの地で活動しました。

立志社は、自由民権運動を代表する結社として全国にその名をとどろかせ、立志学舎は、新思想を教育して多くの民権家を育てました。

明治11年には、民権派が地方自治を求めて開催した第二回土佐州会の会場にもなっています。

明治13年になると、山内家が東京で経営していた海南私塾の分校が鷹匠町から移転し、後に本校と合同して海南学校に発展、質実剛健の校風で知られました。

その後、海南学校は明治22年に県立中学海南学校、昭和7年には県立城北中学校と合併して県立海南中学校となりました。現在、その校史は県立高知小津高等学校に引き継がれています。



昭和初期の詳細な高知市街図 海南学校の建物の配置が分かる
鏡川や江ノ口川、堀川、新堀川で結ばれた水の都の様子が描かれている



九反田時代の海南学校正門だった開成門
正門奥が日露戦争後に建てられた戦没者慰霊塔